



昼食時はスタッフの方とともに、わきあいあいと過ごされています

ありのままの思いから わかること

Tさん(女性25歳)は、養護学校を卒業してから、足羽ワークセンターを利用して24年4月1日に、ツクイ福井森田(デイサービスセンター)に清掃員として雇用されました。

現在、障がいのある方の雇用を積極的に進めている会社が増えつつありますが、ツクイ福井森田では今回の雇用についてどのような思いをもっておられるのか、管理者である齋藤様にインタビューを行ってきました。

雇用を行うきっかけは何でしたか？

ここ森田事業所では、清掃の部分で業務にかなり時間がかかっている、スタッフの負担が非常に多い現状がありました。また会社独自で、障がいのある方の人件費を本社が負担する制度があり、現場の現状と制度をすり合わせた結果、障がいのある方を雇用しようと考えました。

実習の受け入れ前、雇用を進めるにあたって何か思いはありましたか？

週1回のお風呂掃除の実習を始める前は、スタッフから『障がいのある方とどうかかわっていけないか』という声も聞かれました。

しかし、足羽ワークセンター支援職員の方(以下支援職員)が付き添って入って下さり、Tさん自身も丁



汗だくになりながらもせっせとお風呂掃除

寧に掃除をしている姿が見られましたし、スタッフの清掃業務の中でお風呂掃除が一番時間がかかっていたので、こちらとしてはとても助かる部分の方が多かったです。

雇用に向けて、平日一日清掃業務を行っていた際も、支援職員の方が丁寧に見て下さっていたので安心でした。お風呂掃除以外にも、玄関やトイレ、フロア等の清掃も組み込んでいただいたので、清掃業務は少しずつTさんに任せられる仕事になっていきました。

現在のTさんの 仕事ぶりはどうですか？

今になってわかるのですが、毎回支援に入って下さったときと、現在月1・2回の訪問とを比べると、慣れしてきたせいか、周りに気を取られながら仕事をする姿が多く見られるようになりました。また、実習のときから使っている掃除のチェック表を継続して使用してもらっているのですが、

チェックに漏れがあつたり、提出し忘れてしまつたりする 때가 あります。その都度しつかり本人に伝えていくのですが、最近指摘する頻度が少し増えてきているかなと感じることがあります。

こちらとしては、Tさんを障がいのある方としてではなく、一職員としてみていけるので『できること・やらなければいけないこと』はしつかり伝えていかなければ

ならないと思いますし、実際本人にもきちんと伝えていきます。Tさんも、注意されたことについてしつかりやってくれますし、次の日も気をつけてやろうとする姿が見られるので、継続して伝えていく必要があるのだと感じています。

また、これからも定期的な支援職員の方に訪問していただき、掃除のものがなにかどうかや本人が集中して仕事に取り組んでもらえるよう支援して



掃除が終わった場所は、チェック表を確認していただいています

いただくたいです。いつもと違う業務を頼んでも、一生懸命やろうとしてくれる姿が見られるので、Tさんが頑張っている姿をみると私たちスタッフも『頑張らないと！』という気持ちになります。最初のころは、Tさん自ら話すこと

はあまりなく、とても緊張している姿が見られました。が、今は昼食時、スタッフとTさんが雰囲気よく話している姿が見られるので、今後も一職員として頑張っていたいただきたいと思っています。

今回のインタビューを通して、事業主の方の率直な思いを知ることができました。

就職して支援が終わるのではなく、継続して就職後のケアを定期的に行っていく必要性を改めて感じました。

Tさん自身、今後もさまざまな課題に立ち向かわなければならぬことがあると思います。Tさんが、たくましさをも身につけ、自分自身で乗り越えていけるよう、今後も関係者の方と連携してサポートしていきます。

みんなの広場

今までフレンピック大会は知的、身体、精神の障がいの種類別に個別に行われていました。それが、今大会は障がい者スポーツにかかわる人たちの交流を深めようと、各障がい合同で行う初の全県統一大会となりました。

足羽ワークセンターから出場した90名余りの選手は、ほぼ全員が競技を棄権することなく参加できました。そして、優秀な成績を収め金メダルを職員に見せにきてくれた方、残念ながら自分の思いに届かない結果になったことを「くやしい」とつぶやかれた方など、さまざまな思いを選手の方は感じていました。



女子400mリレーを全力疾走するCさん